

重点課題 全国学力・学習状況調査	重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）
<p>○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において、文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。 (国語A 設問5：通過率41.4%)</p> <p>○「書くこと」の領域において、相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。(国語B 設問1三:通過率32.8%)</p> <p>○「書くこと」の領域において、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題がある。(国語B 設問2二：通過率32.8%)</p>	<p>○相手や目的に応じ、伝えたいことが伝わるように文章を書くためには、それぞれの文の中での語句の役割や語句相互の関係に着目させ、文をどのように組み立てればよいのかを考えさせていく。また、言葉の意味を明確に伝えるために、話をする中でも主述の関係を意識した会話を心がけさせる。</p> <p>○目的意識や相手意識をもたせた表現方法や文字数・キーワード等の条件を付けた文章表現の技能を身に付けさせる。その際に、他教科や総合的な学習の時間と関連させながら、話し合いの場面を仕組み、日常での経験を積み上げていく。また、条件をつけた作文等の指導で日常的に指導を繰り返していく。</p>

【全国学力】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 小テスト(同問題)	6年生 復習テスト(同問題)		5・6年生 標準学力テスト		5年生 H30「全国学力」	
目標値	35%	50%		75%, 85%		A75%, B60%	
実施後数値							

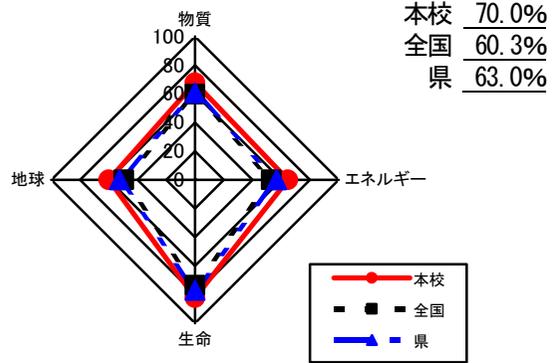
全国学力・学習状況調査 本年度正答率		本年度の結果について	
<p style="text-align: center;">A問題</p> <p style="text-align: right;"> 本校 <u>70.0%</u> 全国 <u>63.5%</u> 県 <u>66.0%</u> </p>	<p style="text-align: center;">B問題</p> <p style="text-align: right;"> 本校 <u>56.0%</u> 全国 <u>51.5%</u> 県 <u>54.0%</u> </p>	<p>○全体的な傾向について 算数の結果において、主として「知識」に関する問題は70.0%、主として「活用」に関する問題は56.0%の通過率となっている。県平均、全国平均と比べ、どちらの数値も上回っており、「知識」に関する内容についてはおおむね定着していると考えられる。「活用」に関する内容については、選択式や短答式の問題にはおおむね答えることができているが、言葉や式を使って答える記述式の問題に課題がある。</p> <p>○昨年度の課題への取組の成果と課題 昨年度は、多くの情報を整理して、問題場面を把握することに課題が見られた。そこで、キーワードに線を引かせたり、自分の考えを図や式を使って説明させたりすることに取り組んだ。その結果、昨年度に比べ、記述式の通過率が8.2%上昇しており、課題を整理・把握する力が身に付いてきたと考えられる。しかし、今年度の記述式の通過率は51.4%であるため、引き続き取り組んでいく必要がある。</p>	

重点課題 全国学力・学習状況調査	重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）
<p>○「量と測定」の領域において、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。(算数A設問4(2):通過率36.2%)</p> <p>○「数量関係」の領域において、メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することに課題がある。(算数B設問3(1):通過率25.9%)</p> <p>○「数量関係」の領域において、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することに課題がある。(算数B設問3(2):通過率19.0%)</p>	<p>○単なる知識・技能の定着にならないよう、授業の中で意図的に操作や作図などの算数的活動を取り入れ、体験的に理解を深めさせる。また、式と言葉を一致させながらペアトークで説明させたり、キーワードを使ってノートにまとめさせたりするなど、児童全員が思考し表現できるような場を設定する。</p> <p>○問題場面を整理・把握させるために、大切な言葉や数値に線を引かせたり気付きや要点を書き込ませたりする。さらに、自分の考えを筋道立てて分かりやすく説明できるように、算数用語を適切に使ったり簡単な図に表したりするなどの表現方法を身に付けさせる。</p>

【全国学力】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		6年生 復習テスト(同問題)	5年生 小テスト(同問題)	5・6年生 標準学力テスト		5年生 H30「全国学力」	
目標値		30%	20%	75%, 80%		A70%, B50%	
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [理科]

全国学力・学習状況調査 本年度正答率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
理科の結果において、主として「知識」に関する問題は91.0%、主として「活用」に関する問題は65.0%の通過率となっている。県平均、全国平均と比べ、どちらの数値とも上回っている。知識に関する内容に関してはおおむね定着していると考えられる。しかし、活用する力については、まだ課題が残っている。

○昨年度の課題への取組の成果と課題
昨年度は、教科で学習した知識や技能を実生活や様々な場面で活用する問題で課題が見られた。そこで、単元の終わりに既習事項を活用した問題を解答する時間を設けた。その結果、昨年度に比べ、主に「活用」に関する問題の通過率が前年より1.5%上昇しているが、65.0%と依然、課題である。

重点課題 全国学力・学習状況調査

【課題1】

流れる水の働きの問題において、侵食、堆積された後の実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られる。

((設問 2(3)通過率 29.3%)

【課題2】

食塩水を蒸発させた後に取り出された物質に関する問題において、問題に対応した結論を導き出すために、実験結果から言えることだけを述べた内容に結論を改善することに課題が見られる。

(設問 4(4)通過率 46.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

授業の中で考察を記述させる際に、実験結果の理由を推測させ、考察の雛形を参考にしながら、論立てて書くことができる指導を行う。また、第3学年から段階的に考察の書き方の指導を積み重ね、高学年では自分の言葉で論理的に考察ができるように取り組む。

【課題2】

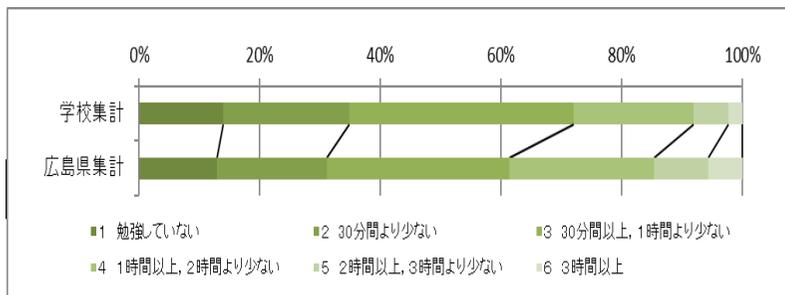
めあてと考察に繋がりを持たせるために、児童が考察を書くときに、めあてにもう一度立ち返らせる。また、考察を書いた後に、考察がめあてと関連しているか確認するよう指導を行う。理科以外の学習でも、めあてとまとめに繋がりを持たせた学習経験を積み重ねさせる。

【全国学力】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				3・4・5年生 標準学力テスト	5年生 小テスト (同問題)	5年生 H30 「全国学力」	
目標値				75%, 75%, 80%	40%	70%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）

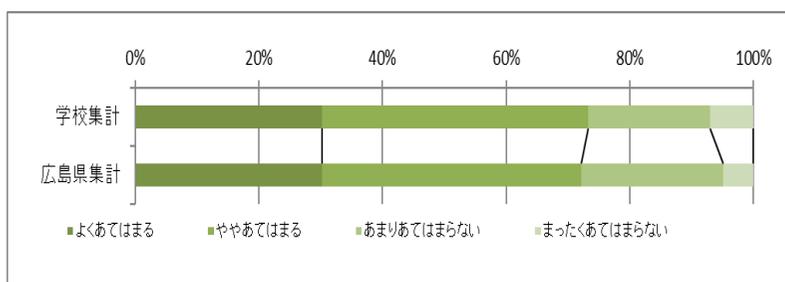
(1) 生活・学習

休日（土曜日・日曜日・祝日）、家では、1日何時間くらい勉強していますか。

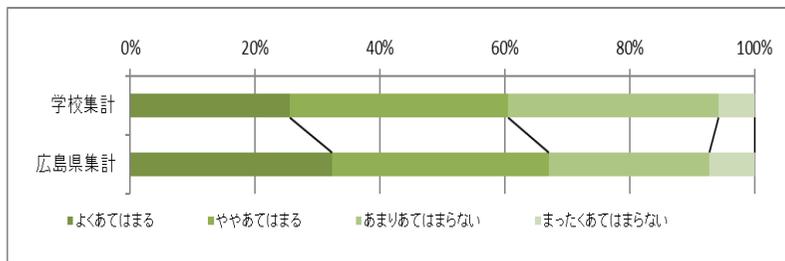


(2) 教科

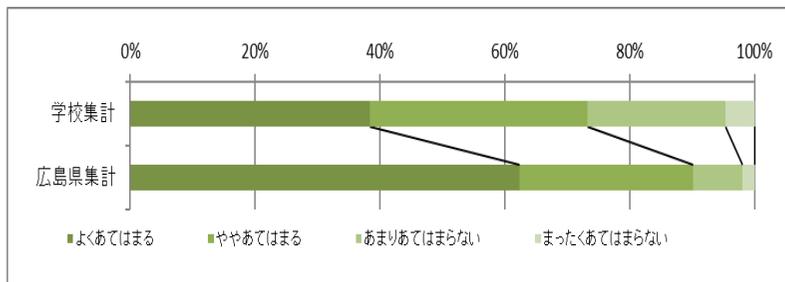
国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立て方を考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業はよく分かります。



	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	◎休日（土曜日・日曜日・祝日）、家では、1日何時間くらい勉強していますか。 勉強していない児童の割合 14.0%（広島県 12.9%） 3時間以上している児童の割合 2.3%（広島県 5.7%）	・週末に、土日や休日しかできない課題に取り組みさせる。また、懇談会等を通じ、現状を伝えた上で、家庭での過ごし方と合わせ、保護者に理解・協力を得ていく。	5	「勉強していない」児童の割合 13%以下	児童アンケート	2月		
全国	◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」 否定的な回答（あまりしていない・全くしていない）をした児童の割合 36.2%（広島県 28.2%）	・2学期から「自主勉強ノート」の取組を始め、自分で計画を立て自分で決めた内容について自主的に勉強していく機会をつくる。その際には、よい取組をしている児童のノートを他の児童や家庭に紹介する等、効率的で効果的な学習の仕方を具体的に指導していく。	6	否定的な回答の児童の割合 28%以下	児童アンケート	2月		

	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	◎国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立て方を考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。 「まったくあてはまらない」と回答した児童の割合 7.0%（広島県 4.9%）	・ペアやグループ学習を通して、説明する場面を多く設定し、発表に対する自信を持たせる。そのためには、授業の中で結論先行、ナンバリング等の基本の話し方や書き方を繰り返し指導し、習得させていく。 ・友達の考えを聞くときには、自分の考えと比較し、共通点や相違点を整理しながら聞くように指導する。	5	「まったくあてはまらない」児童の割合 5%以下	児童アンケート	2月		
算数	◎算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。 否定的な回答（あまりあてはまらない・まったくあてはまらない）をした児童の割合 39.5%（広島県 33%）	・式と答えだけでなく、理由を言葉や式、図などを用いて、自分の考えを書かせる。また、ペアやグループ活動を通して、既習事項や算数用語を使って説明させる機会を多く設定する。	5	否定的な回答の児童の割合 33%以下	児童アンケート	2月		
	◇算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。 否定的な回答（3又は4）をした児童の割合 22.4%（広島県 17.7%）	・言葉、式、図などを含めた、引き出した子ども姿を明確化しておく。 ・振り返りの場面で、授業で学習した様々な考え方を再度確認する。	6	否定的な回答の児童の割合 18%以下	児童アンケート	2月		
理科	◎理科の授業はよく分かります。 否定的な回答（あまりあてはまらない・まったくあてはまらない）をした児童の割合 26.8%（広島県 9.8%）	・生活と関連させたすぐには解決できない課題や、どうしても解決したくなる必然性のある課題を設定していく。また解決に向けて児童相互で「自分たちで解決できた」「分かった」という喜びを味わわせる活動を増やしていく。	5	否定的な回答の児童の割合 15%以下	児童アンケート	2月		
	◇理科の勉強は好きですか。 否定的な回答（3又は4）をした児童の割合 34.4%（広島県 17.1%）	・理科で学習していることが日常生活と深く関わっていることを気付かせるような授業づくりや環境づくりをする。	6	否定的な回答の児童の割合 20%以下	児童アンケート	2月		